

# 札幌市社会教育委員会議報告書手交式 概要録

## 1 議事

(1) 報告書の手交

(2) 懇談

## 2 日時

令和3年(2021年)6月22日(火) 16時40分～17時00分

## 3 場所

札幌市教育委員会5階 教育長室

## 4 出席者

(1) 委員(2名)

佐久間議長、鈴木副議長

(2) 事務局(6名)

檜田教育長、竹村教育次長、丹尾生涯学習部長、村上生涯学習推進課長、  
寺崎社会教育担当係長、中原職員

## 5 開催形態

公開(マスコミ関係者2名傍聴:北海道新聞社1名、北海道通信社1名)

## 6 主な内容

(1) 報告書の手交

佐久間議長から、檜田教育長へ報告書「地域課題に対応する社会教育の在り方について～災害の経験から考える～」の手交を行った。



## (2) 懇談

### ① 佐久間議長、鈴木副議長からご発言

#### ア 佐久間議長

今期の協議テーマにもある地域課題の解決というのは社会教育が果たすべき主要な役割と言え、災害をヒントに、いかにして地域課題に対峙していくかを10名の委員で協議を進めてきた。委員からは、それぞれ専門の領域からご発言いただき、自分自身も勉強になった。今期は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面での会議が行えない時期もあったが、メールで会議を行うことで協議を継続することができた。委員の思いが詰まった報告書になっているので、ぜひ札幌市の社会教育行政の参考にしていただければと思う。

#### イ 鈴木副議長

会議では様々な領域の専門的な意見のもと、色々な視点から議論することができた。今期の協議内容は社会教育という大きな視点で、実際の場面にも通じ得る具体的な提言ができたのではないかと思う。

今期のテーマは災害の経験から考えるということで、災害とは全世代において生涯にわたり学び続けるべき分野であると思う。そのため災害というキーワードを通して社会教育を考えることができたのは、大きく意義があったものと感じている。

### ② 檜田教育長から報告書に対する謝辞

佐久間議長、鈴木副議長をはじめ委員の皆さまにおかれましては、コロナ禍に見舞われながら、2年間で全10回の会議を重ねていただき、専門の知識やご経験から貴重なご意見を賜れたことを心からお礼申し上げます。

今期の協議テーマは、災害をキーワードにどの世代にも大事な視点と言える。学校教育の中でも子どもたちが自分の命をどう守るか、あるいは家族の命をどう守るか、地域の方をどう守るか、そういうことを考える機会がある。報告書を読んで、子どもたちが地域の皆さんから学べる機会というのは、子どもたちにとって地域のことを知るきっかけにもなり、人づくりという視点で、とても大事なことだと感じた。

新型コロナウイルス感染症という新たな災害に直面し、これまでの日常とは違う新たな日常において、対面を主としてきた社会教育をいかにして進めていくか

は今後の大きな課題である。オンラインやICTの活用を進めていくなかで、今回の提言は本当に貴重なご意見だと感じた。本日、頂いた報告書を参考に、これからの札幌市における生涯学習の推進に努めて参りたい。